

## 川尻防潮堤完成式 式辞

本日、ここに「駿河海岸防潮堤川尻工区完成式」及び「大井川川尻地区河川防災ステーション完成式」を国土交通省静岡河川事務所と合同で挙げるに当たりまして、安倍元総理、川勝静岡県知事をはじめ、地元選出の国会議員の皆さま、国並びに県関係機関の皆さま、そして多くのご来賓の皆さまには、ご多用の中、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。吉田町を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。

東北地方を中心に未曾有の災害をもたらした東日本大震災の発生から、早いもので11年の歳月が流れました。あの日、海岸に到達した大津波が沿岸域の町々を破壊するすさまじい惨状を伝えるテレビの映像を前にして、声も無く立ち尽くしたことを今でも鮮明に記憶しております。そして、もしも、あの大津波がこの町を襲ったら…と思った瞬間、テレビで流れる惨状がこの町と重なり、当町が「危急存亡の崖っぷちに立たされた」との思いが脳裏をよぎり、恐怖のどん底に突き落とされました。

今にして思えば、平成23年3月11日がこの町の「津波防災まちづくり」の始まりであり、その日から今日に至るまで、ピンチをチャンスに変えるべく、東日本大震災を機に失われた安全と安心を取り戻すことが私の使命であると覚悟を決め、休むことなく愚直に奔り続けた日々でございました。

当町の津波防災まちづくりは、平成23年11月に、当時、東京大学地震研究所におられました都司嘉宜<sup>つじよし</sup>理学博士の技術指導の下、全国に先駆けて作成した「1000年に一度の大津波を想定した吉田町津波ハザードマップ」をもってスタートを切りました。

この津波ハザードマップに示された大津波による浸水区域は、8.6平方キロメートル、町の面積の41パーセントを占め、そこに住む人は約1万7,000人、町民の55パーセントにも達するものでございました。まさに、東日本大震災が起きた日に脳裏をよぎった「危急存亡」が現実味を帯びてしまう結果となったわけでございます。この津波ハザードマップをもとに、「最悪に備え、最善に期待する」災害対策の基本に即して津波防災まちづくりにおけるハード面の整備計画を練り、まずは、最悪に備えた「町民の命を守る対策」の柱として津波避難タワーの建設、次いで、最善に備えた「町民の財産を守り、企業の生産活動を守る対策」の柱として、防潮堤の整備を計画いたしました。しかしながら、当町の財政規模等を鑑みれば、国や県のご支援、ご協力をいただかなければ計画の実現は極めて困難であることは明白でございました。

本日、ご出席の皆さまは、公私共にお忙しい安倍元総理がなぜここにいらっしゃるのか不思議にお思いになるかもしれませんが、安倍元総理にご臨席を賜りましたのは、この町の津波防災まちづくりは、安倍元総理のお考えであります「防災と地方創生」によるところが大であったからでございます。

そのお考えは、平成25年1月28日、第183回国会における安倍元総理の所信表明演説の中の「経済再生」に触れた一節にあり、『我が国にとって最大かつ喫緊の課題は経済の再生です。…これから提出する補正予算は、その裏付けとなるものです。』復興・防災対

策」「成長による富の創出」「暮らしの安全・地域活性化」という3つを重点分野として、大胆な予算措置を講じます』と謳われております。

既に津波ハザードマップを策定し、津波防災まちづくりにおけるハード面の整備計画を有していた当町は、この安倍元総理のお考えを受けて津波防災まちづくりを一気に加速したわけでございます。

この時の国の補正予算のうち、当町では防災安全交付金を21億3,800万円いただきましたが、これは県下35市町の総額の約71パーセントを占め、地域の元気臨時交付金としていただいた15億8,984万円は、これまた県下35市町の約11.5パーセントを占めるわけですが、当町の財政規模からするとその比率は突出しております。これにより、15基の津波避難タワーや13本の避難道路、避難施設を備えたすみれ保育園、防災公園など「町民の命を守る」対策のほぼ全てを整備することができました。

危急存亡の崖っぷちに立たされた当町にすれば、この「町民の命を守る対策」が完了したからこそ、初めてスタートラインに立つことができ、そして、この町の津波防災まちづくりの最終的な狙いが、まさに安倍元総理が掲げた3つの重点分野を横串に通したものであることがご理解頂けるものと思います。

まずは『津波防災対策を講ずることにより確固たる安全を確保する。確固たる安全が確保された場で、企業は安心して生産活動を営み、雇用が拡大し町がにぎわう。町はその富を子育て、教育、健康づくりなど町民を支える安心をサービスとして提供する。その結果、人々が集まり地域が活性化される。』まさに、安倍元総理がお考えの図式そのものであり、そうであればこそ、防災対策の1丁目1番地は、「最善に期待する」ための「町民の財産・企業の生産活動を守る」防潮堤、すなわち、今ここにそびえる1000年に一度の大津波を海岸で食い止める防潮堤の整備に他ならないのです。

私は、東日本大震災以降、「町民の命を守る対策」と「町民の財産・企業の生産活動を守る対策」を公約として掲げ、これまで津波防災まちづくりを強力に推し進めてまいりました。その結果、4月末時点で約30の企業や店舗が既に当町において創業を開始しており、さらに10の企業や店舗が進出を表明しております。

これもひとえに、安倍元総理のお考えに端を発し、国土交通省並びに県関係各位のご支援、ご指導によりまして、本日を迎えることができたものでございます。ここに改めて、皆さまに心から感謝を申し上げる次第でございます。

駿河海岸防潮堤の川尻工区が完了した今、吉田漁港を含む残りの住吉工区の整備に早急に取り掛かり、この町の海岸線全域において1000年に一度の大津波を食い止める防潮堤を完成させ、最終的に大井川堤防のかさ上げを終えた時、この町は名実ともに確固たる安全を手にすることができ、「豊かで勢いがあり、心を魅了する町」として全国に宣明することができるものでございます。その日を夢見て、今日からまた、ひたすらに走り続けることをここにお誓い申し上げ、結びに、本日ご列席の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

令和4年5月14日 吉田町長 田村典彦